

株式会社ファイバーゲート

2024年6月期第1四半期決算説明資料



上場市場 : 東証プライム 札証
証券コード : 9450

 **2024年6月期1Q決算実績**

 **2024年6月期通期決算見通し**

 **トピックス**

Appendix

1

2024/6期1Q実績：10%増収14%経常増益

- ✓ 1Qの過去最高を更新。EBITDAマージンも高水準維持
- ✓ ホームユース事業は既築・新築いずれも順調。ビジネスユース事業は大型案件期ズレもあり、売上はほぼ横ばいながら、利益率は上昇

2

2024/6期見通し：7%増収10%経常増益

- ✓ 現状見通しを据置き。成長減速は不動産案件端境期のため。通信事業のみでは16%増収とほぼ前期並みの成長を確保する見通し
- ✓ セグメント別には新築案件の貢献するホームユースが好調を持続。ビジネスユースも先行指標たるフロー収入の増加を牽引役に拡大

3

自社株取得など資本コストと株価を意識した経営を推進

4

トピックス



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

2024年6月期1Q決算実績

- 2024/6期1Qは前年比10%増収14%経常増益。経常利益率も0.7pp改善し、比較的順調な滑り出しとなった前期からさらに増収増益を確保。1Qでは過去最高を更新となる。今期も順調な滑り出しと位置づけ
- 成長は引き続きホームユース事業が牽引。既築・新築案件いずれも順調。一方、注力分野であるビジネスユース事業は大型案件期ズレもあり、売上はほぼ横ばい。ただし、大規模施設増や値上げ浸透により利益率は上昇

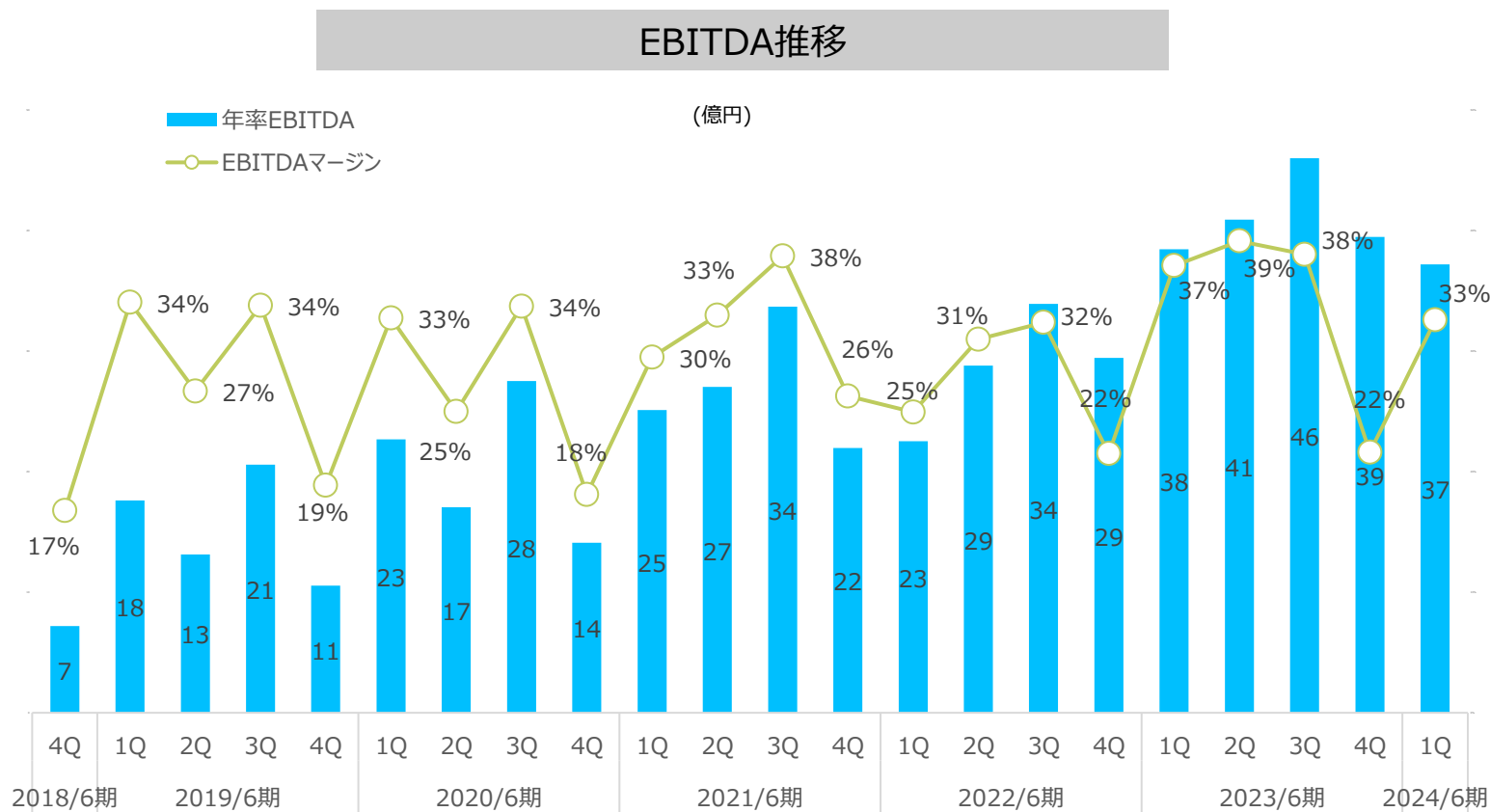
(百万円) 百万円未満切り捨て 0.1%未満四捨五入	2023/6期 1Q実績	2024/6期1Q			2024/6期通期	
		実績	前年差異	前年比	見通し	進捗率
売上高	2,591	2,852	+261	+10.1%	13,710	20.8%
ホームユース	2,256	2,521	+265	+11.7%	11,020	22.9%
ビジネスユース	329	327	▲2	▲0.7%	1,860	17.6%
不動産他	5	4	▲1	▲20.2%	830	0.5%
営業利益	480	525	+44	+9.3%	2,530	20.8%
ホームユース	671	714	+42	+6.3%	3,290	21.7%
ビジネスユース	46	56	+10	+22.0%	460	12.3%
不動産他	▲8	▲4	+3	赤字縮小	80	-
調整	▲229	▲241	▲12	赤字拡大	▲1,300	18.6%
経常利益	480	548	+67	+14.1%	2,520	21.8%
経常利益率	18.5%	19.2%	+0.7pp	-	18.4%	-
親会社当期純利益	337	370	+33	+9.9%	1,680	22.1%

- 対4Q比較では、不動産事業の影響を除くと、売上は実質横ばい。ホームユースでストック積み上がり効果が寄与したものの、ビジネスユースは期末に集中した機器販売の反動減が影響
- 損益的には対4Qで減益。しかし、不動産の寄与を除いたベースでは増益を確保。事業拡大に伴う間接コストの増加も一巡し、利益が出やすい構造に。通信事業は着実に収益体質の強化が進捗

(百万円)	2022/6期				2023/6期				2024/6期	4Q 比較
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
売上高	2,258	2,323	2,618	3,423	2,591	2,612	3,024	4,567	2,852	▲1,714
ホームユース	1,930	1,977	2,132	2,101	2,256	2,245	2,632	2,466	2,521	+54
ビジネスユース	257	336	342	308	329	350	381	450	327	▲122
不動産他	70	10	144	1,013	5	16	10	1,650	4	▲1,646
営業利益	288	445	515	403	480	511	745	582	525	▲57
ホームユース	451	611	656	598	671	717	897	683	714	+31
ビジネスユース	53	76	58	46	46	70	89	83	56	▲26
不動産他	0	3	19	28	▲8	4	▲2	145	▲4	▲150
調整	▲216	▲246	▲219	▲270	▲229	▲280	▲238	▲329	▲241	+88
経常利益	279	439	509	375	480	500	737	571	548	▲23
経常利益率	12.4%	18.9%	19.5%	11.0%	18.5%	19.2%	24.4%	12.5%	19.2%	+6.7p
当期純利益	182	299	345	246	337	338	499	306	370	+63

*百万円未満切り捨て、0.1%未満四捨五入

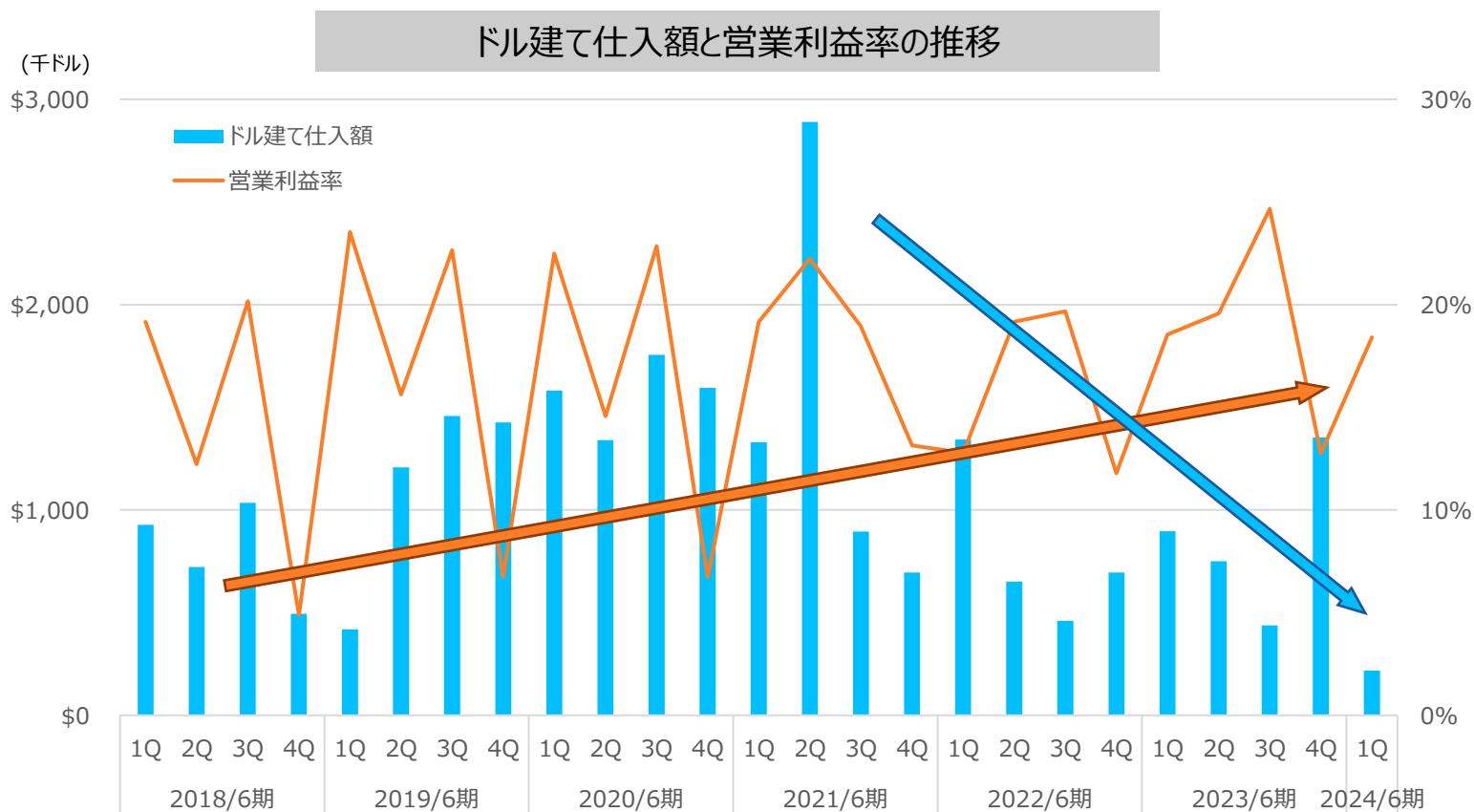
- EBITDAは上場来順調に拡大。1Qでは年率37億円を計上し、EBITDAマージンも33%と高水準を持続
- EBITDAマージンはほぼ一貫して3割前後の水準で推移。企業規模の拡大はあるものの、キャッシュ創出力に減速の兆しは見えず



注) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 と定義

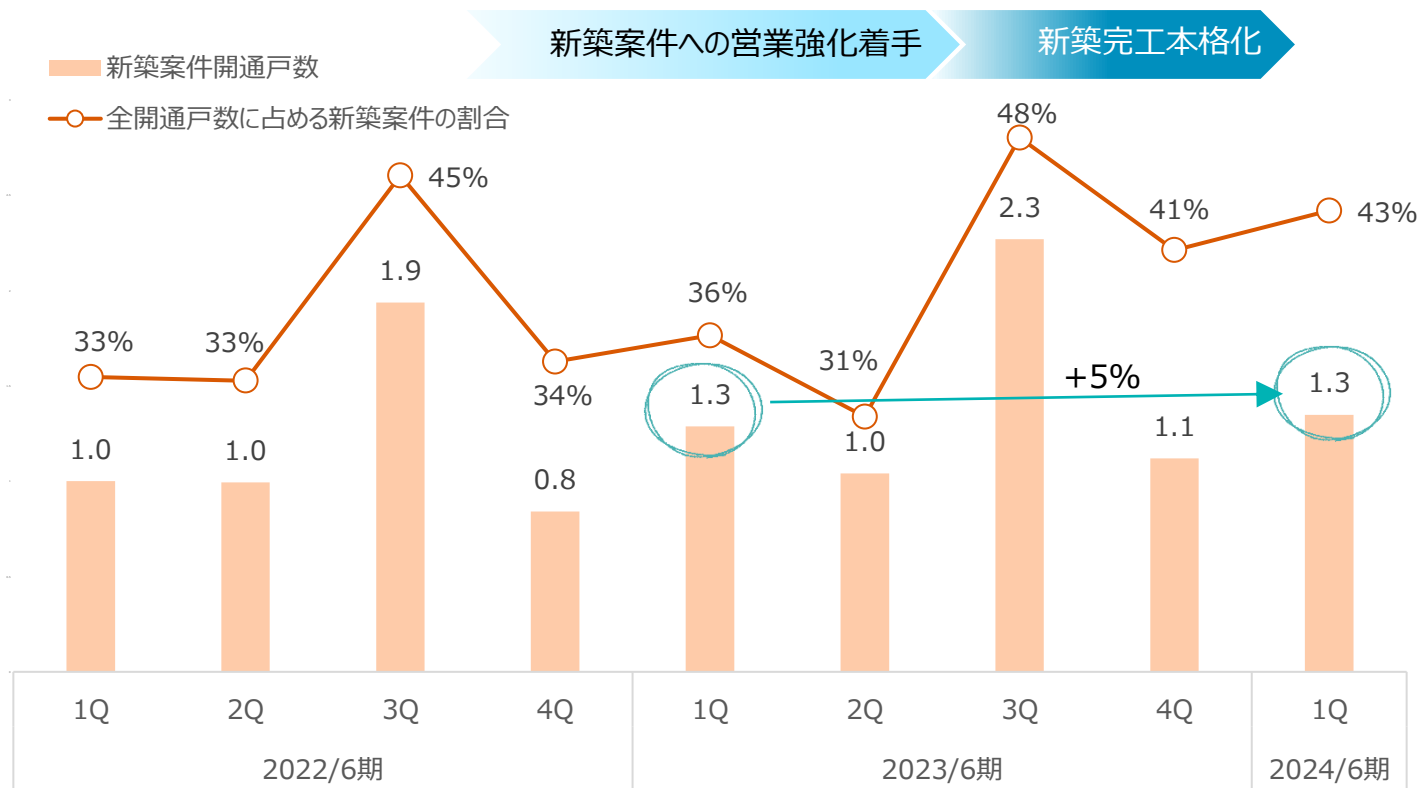
ドル建て仕入額と営業利益率の推移

- 通信機器は海外からの調達製品が多いものの、ドル建て仕入額は2021/6期以降、漸減。Wi-Fi契約数は増加しているものの、円建て決済へのシフトなどを推進し、為替変動の影響を抑制
- その結果、直近は円安進行下ながら、営業利益率の下限は切り上げが進展。収益の安定度は向上



- 1Q四半期のホームユース事業新築案件開通戸数は前年比5%の増加。これまでの増加ピッチと比較すると比較的小幅な伸びに留まるも、営業から完工までのタイムラグを考えれば、ほぼ定常状態に近いと認識
- 全開通戸数に占める新築案件の割合は43%。新築案件も軌道に乗り、今後はおよそこの程度の比率で安定するものと想定

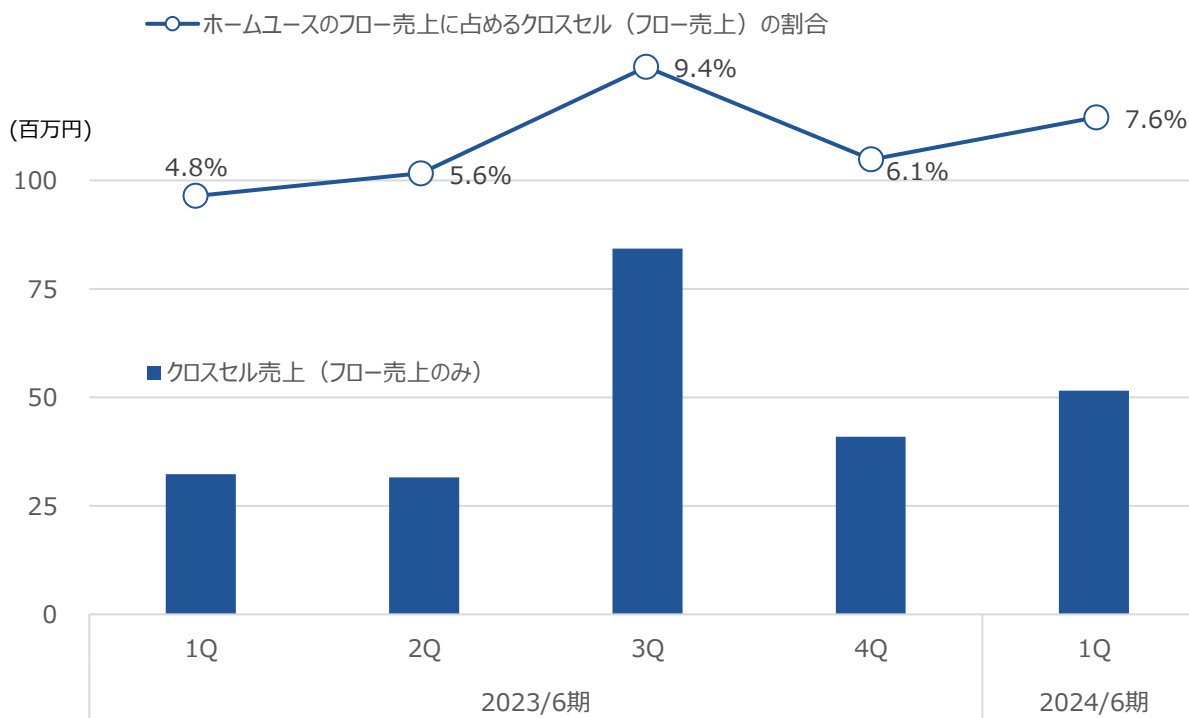
ホームユース事業 新築案件開通戸数推移



*2022/6期1Qの新築開通戸数を1とした場合の指数表示

- クロスセルは2023/6期より本格的に注力。IoTを利用したスマートロックやセンサー、防犯対応のネットワークカメラなどをWi-Fi利用顧客に提供。クロスセル製品の総売上規模（フロー売上とストック売上の合計）は現時点で約1億円/四半期程度
- 主体は導入時点のフロー売上であり、趨勢として拡大基調で推移。前3Qの急拡大は新築完工集中による季節要因の影響によるもの。1Q時点でホームユースのフロー売上に占めるクロスセルの売上割合は7.6%まで上昇

クロスセルのフロー売上推移

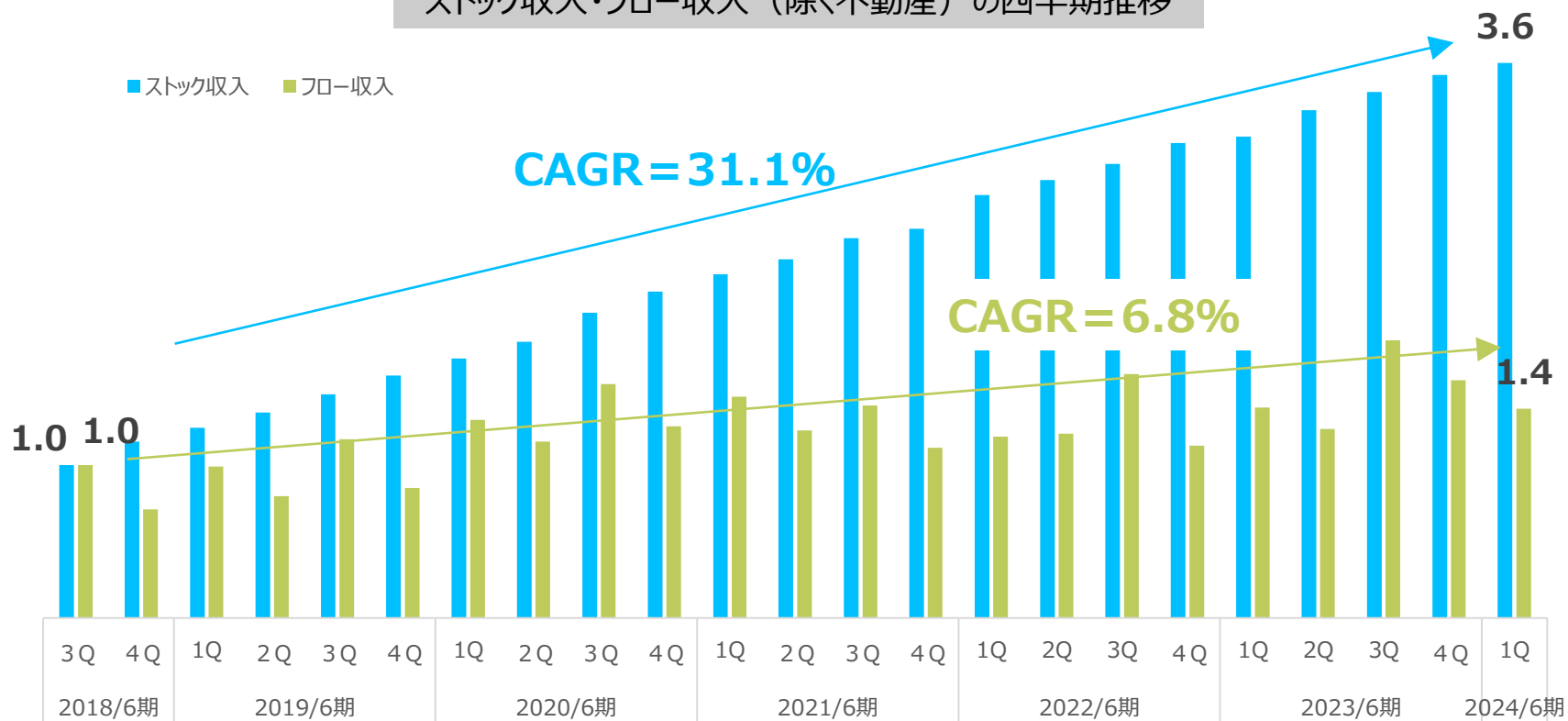


宅配BOX設置サービス



- ストック収入の積上げは順調。上場来22四半期連続の増加となり、年平均成長率は31%と高水準を継続。ただし、成長率自体は規模の拡大から徐々に低下する傾向が徐々に鮮明に
- 一方、フロー収入は一進一退ながら、着実に事業規模は拡大。これらはストック収入の入口との位置づけ

ストック収入・フロー収入（除く不動産）の四半期推移



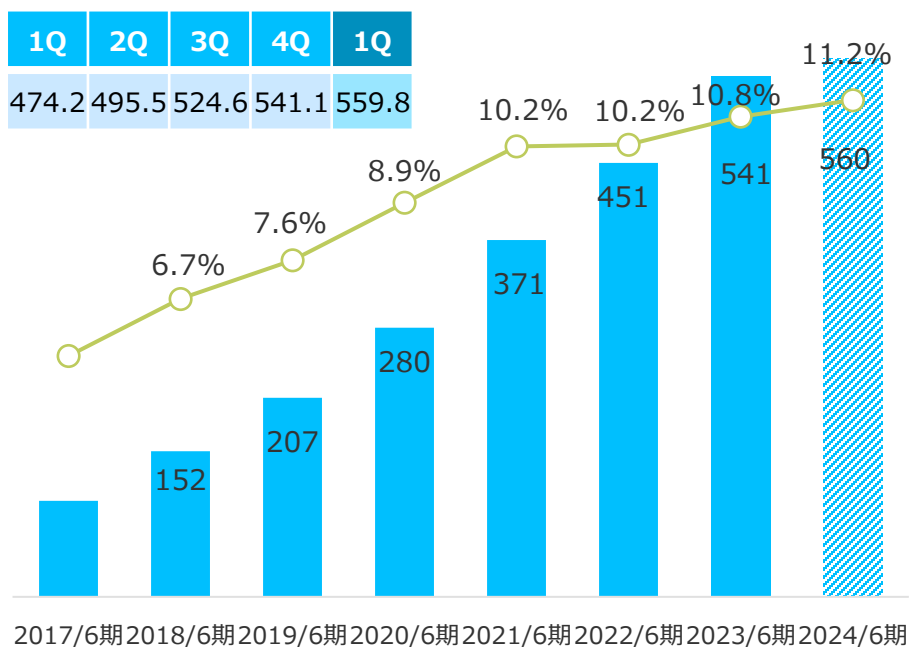
注) 2018/6期3Q=1 として指数化。小数点以下の差により、同じ数値表記にもかかわらず、見かけ上グラフの高さに違いが生じることがある
 この収入内訳は当社定義に基づく連続性のある比較数字であり、収益認識基準下における期間按分売上などは厳密には異なる

- レジデンスWi-Fiサービスの期末接続済戸数は56万戸。新築案件効果もあり、接続済戸数増加ピッチは堅調
- ビジネスユースにおいて先行指標となるフロービジネス売上は、足の長い案件増や売上期ズレもあり、1Q時点ではスロースタート。一方、ストックビジネス売上は着実に伸長。加速感はまだながら、ストックの積上げ急ぐ

レジデンスWi-Fiサービス接続済戸数と全国シェア*の推移

■ レジデンスWi-Fiサービス接続済戸数（千戸） ● 全国シェア

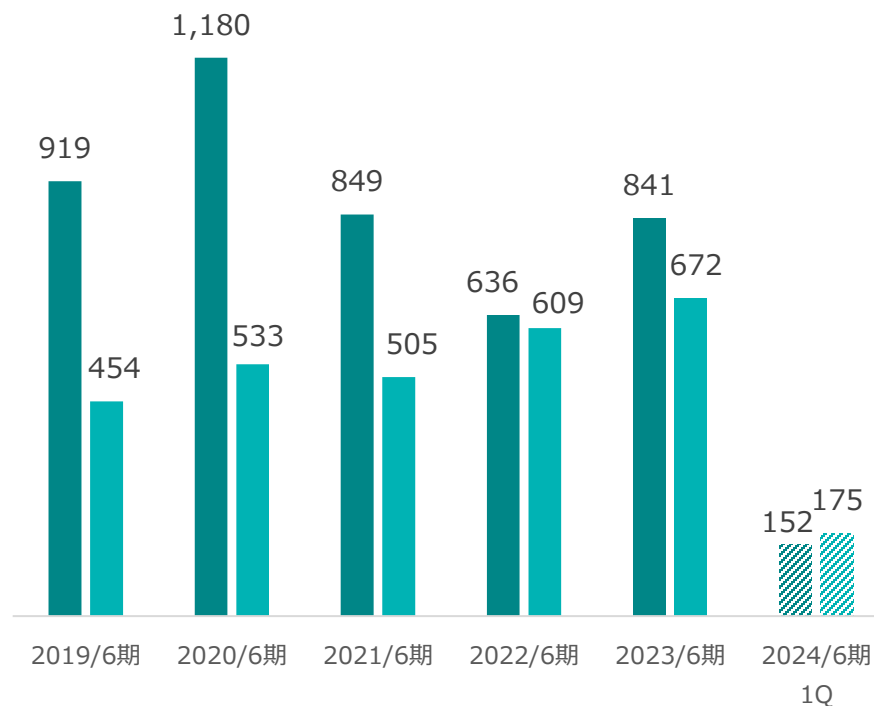
過去5四半期の推移



*全国シェアはMM総研発表による全戸一括型マンションISPの提供戸数総数（各3月末現在）を当社会計年度末（もしくは直近四半期末）の契約戸数実績で除して算出

フロー/ストック別ビジネスユース売上高推移

■ フロー ■ ストック (百万円)



- 当社のROEは直近5期実績平均で33%。このままでは純資産が積み上がり、加重平均資本コスト(WACC)が上昇してしまう可能性が否めない状況
- 資本効率上昇に向けて、財務レバレッジを活用。純資産は配当増や自社株取得などにより、その積み上がりピッチを緩和させ、WACCの上昇を抑制。2023年11月には自社株取得の再実施を発表

純資産抑制策

<自社株取得実績>

2020/3	上限1億円 (111,400株取得)
2021/12	上限1億円 (88,000株取得)
2023/3~8	上限1億円 (74,400株取得)
2023/11~	上限1億円 (上限89,686株)

<配当状況>

2019/6期	0.00円/株
2020/6期	3.50円/株
2021/6期	4.00円/株
2022/6期	4.50円/株
2023/6期	10.00円/株

純資産積み上がりピッチを緩和

<ROE>

直近5期実績平均 **33%**



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

2024年6月期通期決算見通し

2024/6期連結決算見通し① 総括表

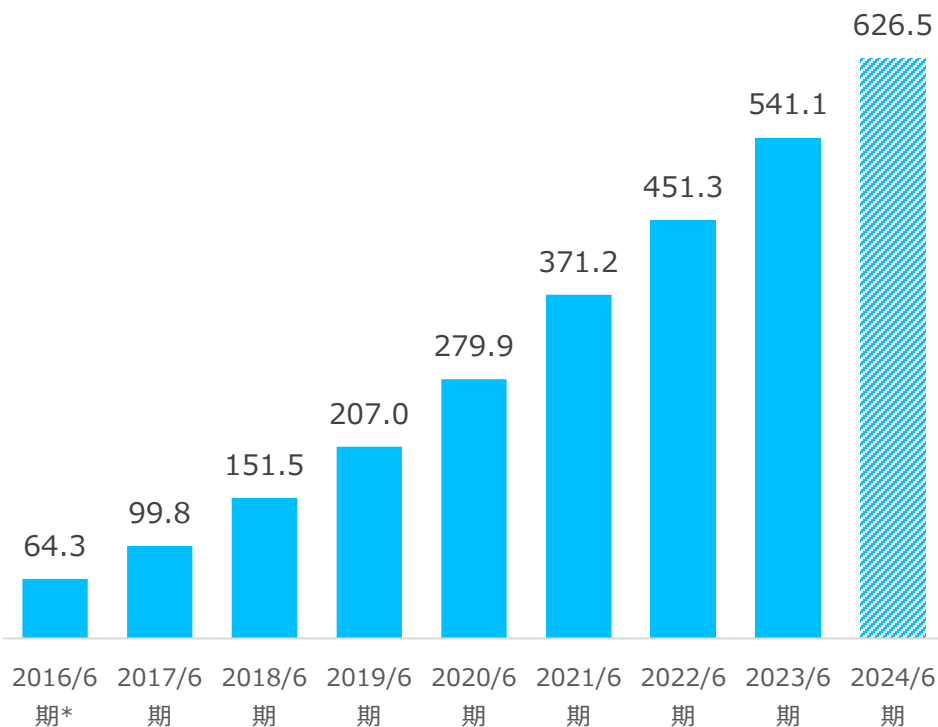
- 2024/6期通期想定は据置き。7%増収10%経常増益を想定。前期からは成長ピッチ減速となるが、これは案件端境期となる不動産事業の影響。通信事業は16%増収と、前期程度の高水準の成長を維持を予想
- セグメント別には新築案件の貢献するホームユースが好調を持続。ビジネスユースも人流回復に伴う商業施設/観光施設向けにフロー収入の拡大を追求。リードタイムの遅れを取り戻し、今期は最も高い成長を目指す

(百万円。百万円未満切り捨て)	2022/6期	2023/6期	2024/6期 見通し	前年比	
				増減額	増減率
売上高	10,624	12,795	13,710	+914	+7.1%
ホームユース	8,141	9,600	11,020	+1,419	+14.8%
ビジネスユース	1,244	1,512	1,860	+347	+23.0%
不動産他	1,238	1,682	830	▲852	▲50.7%
営業利益	1,652	2,320	2,530	+209	+9.0%
ホームユース	2,318	2,970	3,290	+319	+10.8%
ビジネスユース	235	289	460	+170	+58.7%
不動産他	52	138	80	▲58	▲42.2%
調整	▲953	▲1,078	▲1,300	▲221	▲20.6%
経常利益	1,604	2,290	2,520	+229	+10.0%
経常利益率	15.1%	17.9%	18.4%	+0.5pp	-
当期純利益	1,073	1,482	1,680	+197	+13.3%

- レジデンスWi-Fi新規接続戸数の前提は9.2万戸超の増加。累計戸数は62.6万戸と設定。拡大ピッチはほぼこれまで通りの水準を目論む。なお、新築/既築構成では、新築完工本格化により新築のウエイトが増す見通し
- ビジネスユースではフロー売上の更なる積上げを想定。病院や介護施設、観光施設といった注力領域の営業結実に加え、導入の容易な「ワンタッチWi-Fi」などのユニークな商材の浸透に注力

レジデンスWi-Fiサービス接続済戸数

(単位：千戸)

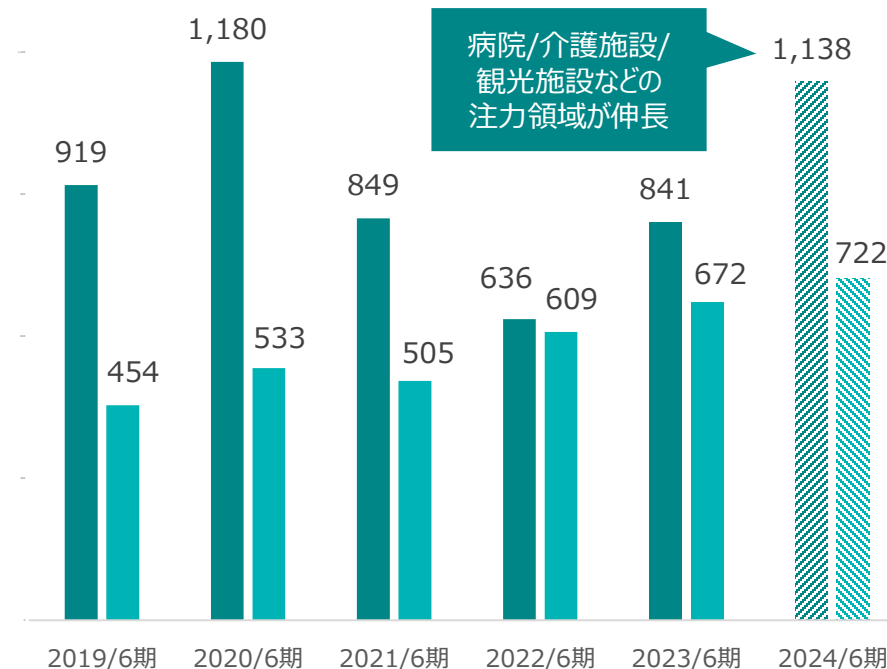


* 2016/6期は6ヵ月決算

フロー/ストック別ビジネスユース売上高推移

(百万円)

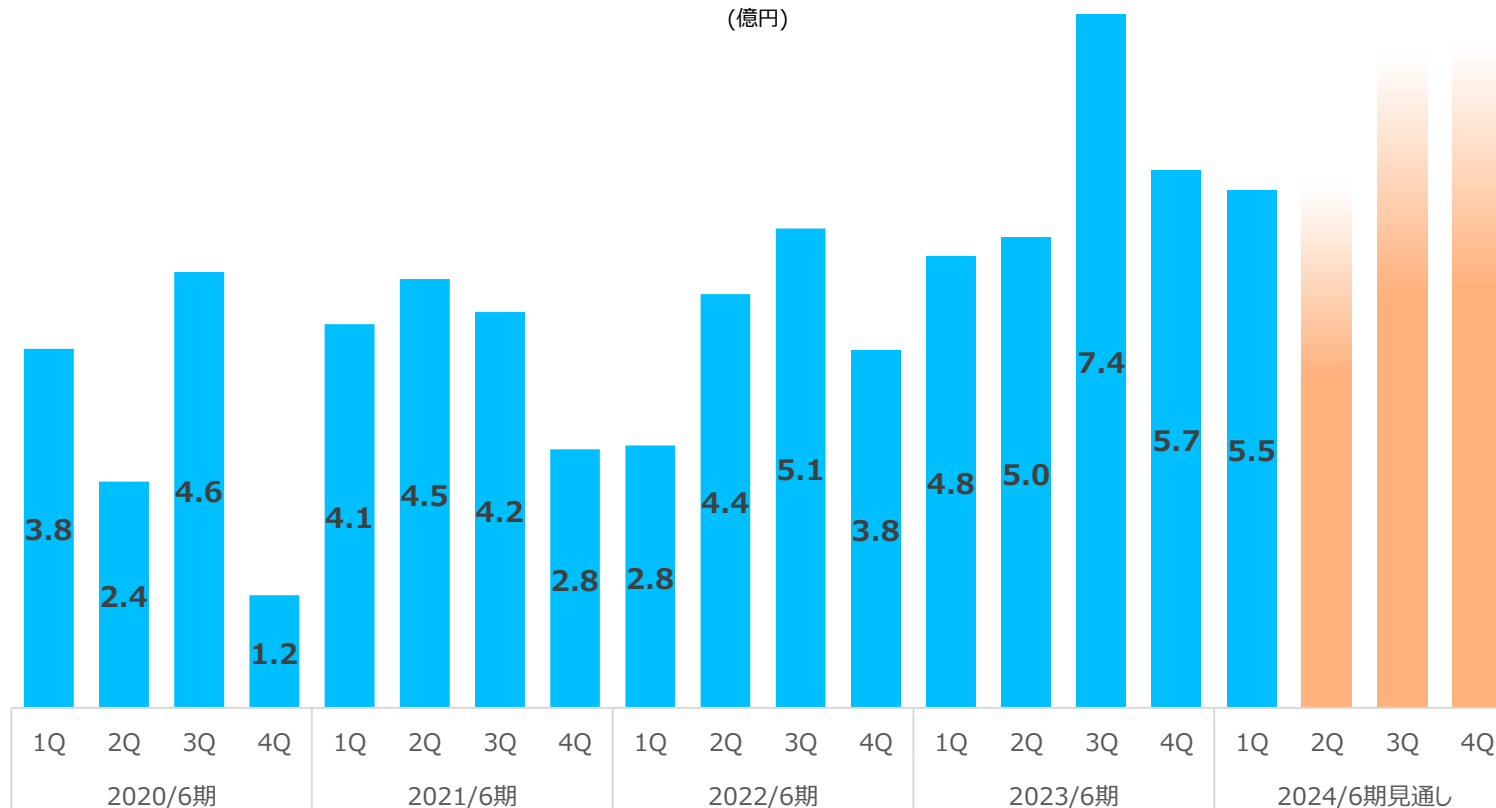
■フロー ■ストック



- 経常利益を四半期別に見ると、2022/6期より季節要因によるボラティリティは徐々に低下し、期を追って業績が改善する傾向が顕著に。ストック収益の積上げが「稼ぐ力」を着実に底上げ
- 2024/6期も、四半期で大きな変動は見込まず。ただし、賃貸住宅市場の繁忙期に相当する3Qから年度末の4Qにかけては収益が高めに計上される傾向は残ると予想

四半期別経常利益の推移イメージ

(億円)





Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

トピックス

- 1 ホームユース：エスリード社と業務提携
- 2 ホームユース：人気設備ランキング「インターネット無料」第1位
- 3 ホームユース：常口アトム「JOG Free Wi-Fi」のOEM提供開始
- 4 ビジネスユース：DUALホールディングスと業務提携
- 5 ビジネスユース：盛岡競馬場のWi-Fi構築事例
- 6 ビジネスユース：ATWS2023のWi-Fi協賛

分譲マンション大手デベロッパー・エスリード株式会社と業務提携



今後のマンション開発



Wi-Fiシステム



FGスマートコール

業務提携内容

- ① 新築マンションのネットワーク構築
- ② IoTソリューションを活用したマンション開発

提携の目的

エスリード社のマンション開発にファイバーゲート保有するWi-Fi構築をはじめ
 その他通信商材「FGスマートコール（顔認証付きインターホン）」を組み合わせ、
更なるマンションの付加価値向上を目指す

全国賃貸住宅新聞

人気設備ランキング

「この設備があれば周辺相場より家賃が高くても入居が決まる」（付加価値編）



1位 「インターネット無料」

（単身者向け、ファミリー向けともに1位）

- ✓ 単身者向けでは9年連続の1位
- ✓ ファミリー向けでも8年連続
- ✓ インターネットインフラは人気設備として定着

当社ホームユース事業のビジネスモデルは依然として十分機能可能なことを確認

引用：全国賃貸住宅新聞 10月16日号
 ネット無料、首位独走【入居者に人気の設備ランキング2023 付加価値編】 <https://www.zenchin.com/news/content-1257.php>

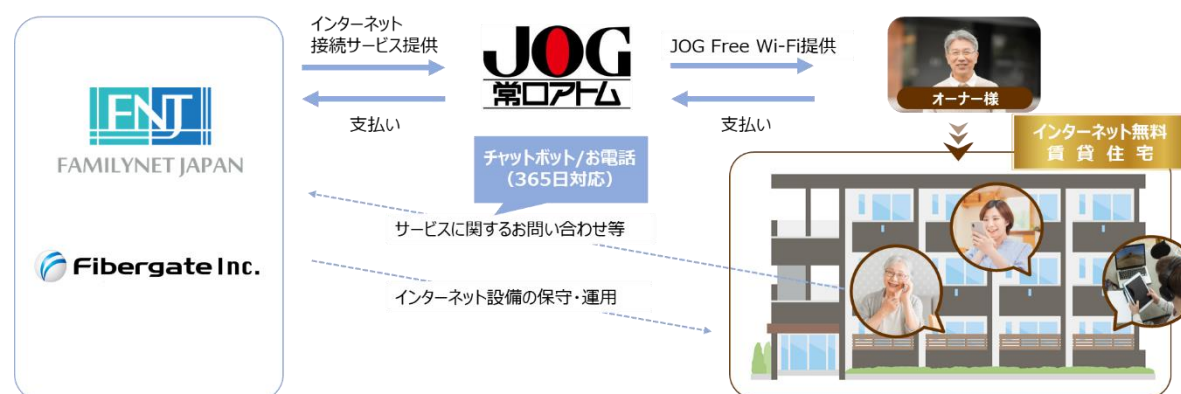
株式会社ファミリーネット・ジャパンと共同で、株式会社常口アトムの全戸一括インターネットサービス「JOG Free Wi-Fi」のOEM提供を開始



■ 目的

今回のサービス提供を通じて、入居者様の住満足向上、物件オーナーの賃貸経営安定化に貢献。

■ 提供イメージ



〔株式会社常口アトム〕

設立：1992年2月

代表者：代表取締役社長 清河 智英

所在地：北海道札幌市中央区北2条西3丁目1番地12 敷島ビル3F

事業内容：アパート、マンション、戸建等居住物件の賃貸借仲介業務及び、共同住宅の企画等。管理戸数は直近5.6万戸

〔株式会社ファミリーネット・ジャパン〕

設立：2000年10月

代表者：代表取締役 浜西 豊

所在地：東京都港区愛宕二丁目5番1号愛宕グリーンヒルズMORIタワー29階

事業内容：集合住宅向けインターネット接続サービス、エネルギーの売買、エネルギーモニタリング及びエネルギー情報活用サービス等

EV充電インフラ事業を展開する株式会社DUALホールディングスと業務提携 パートナー提携を通して販路拡大を目指す



業務提携内容

- ✓ 双方の事業領域における協力を通じた新たなサービス価値の創出
- ✓ 当社のビジネスユース事業の顧客をターゲットとして促進

提携の目的

- ✓ インフラを通じて顧客の課題解決に取り組む企業としての事業シナジー創出
- ✓ 相互の顧客紹介を通じた両社の事業発展の加速

<EV充電コンシェルジュ>

お客様の抱える課題をコンシェルジュ目線でヒアリングし、20社以上の充電器メーカーから選定された充電器の提案、設置工事、国や自治体への補助金申請の事務サポートまでをワンストップで提供

地方競馬場で日本一の広さを誇る「盛岡競馬場」へWi-Fi Nex[®]の提供開始



導入経緯

ダートグレード競争実施時に携帯電話の電波の輻輳等が影響し、来場者の通信環境が芳しくない状況が発生

導入ポイント

- ✓ トラフィックの負荷を分散させるネットワーク設計を実施
- ✓ ユーザー認証プロセスによるネットワーク犯罪の抑止
- ✓ イメージキャラクター「ハヤテ君」を用いたオリジナル認証画面

▶ **フリーWi-Fiを構築して分散させ、輻輳緩和を期待**

▶ **約20台のアクセスポイントで競馬場スタンド内をカバー**

【施設概要】

- ・名称：盛岡競馬場
- ・住所：岩手県盛岡市新庄字上八木田10
- ・敷地面積：128ha

「ATWS2023」Wi-Fi構築協賛で北海道のアドベンチャーツーリズムに貢献

2023年9月11日～14日に開催された
アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本（ATWS2023）
Wi-Fi環境構築のパートナー企業として協賛

構築概要

オープニングセレモニー（レセプション）会場である大倉山ジャンプ競技場と
本大会の会場である札幌コンベンションセンター内のWi-Fi環境構築

設計ポイント

各国から来場される参加者が期間中、各会場でスムーズなWi-Fi
接続を可能とするため、来場者用フリーWi-Fiと講演者専用のネッ
トワークを区別して構築

<ATWS2023概要>

ATTAが主催する世界最大のアドベンチャートラベルイベント。
世界中の約60カ国から旅行会社やメディア、ツアーオペレーター、アウトドアメー
カー、政府観光局、観光協会、DMOなど約800人の関係者が参加し、期間中
にATツアー体験や講演会、セミナー、商談会等が行われる。

2023年のATWSの開催地は、北海道。



Wi-Fi, Anywhere 「すべての施設にWi-Fiを」 ～Alternative Carrierの実現に向けて～

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画本部 IR担当
0120-772-322
fgir@fibergate.co.jp